

第3回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：平成28年8月5日(金) 18:30～20:30

場所：市民活動センター

日程

1. 開会
2. 平成28年度境港市市民活動推進補助金の審査
3. その他
4. 閉会

出席者（敬称略）

石橋文夫 植田建造 遠藤恵子 梶川恵美子 門脇紀文 門脇京子
佐古 廣 徳尾 勝 松本幸永 渡部敏樹

欠席者（敬称略）

土田良和 佐名木歩実

<開会>

（事務局）

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。いつも貴重なご意見や熱心な議論をいただき、感謝申し上げます。

本年度、2回目の募集をしましてところ、新規設立事業に1団体、一般事業に1団体、緑化事業に1団体の申請がありました。今回の募集後、まだ約50万円予算残がありますので、10月頃に第3回を予定したいと考えておりますので、引き続き委員の皆様には、広報のご協力をお願いいたします。

本日の審査会の進め方について説明いたします。

審査は審査員をみんなでまちづくり推進委員のなかから3名選出し、地域振興課長と合わせて4名で審査を行います。委員から選出する審査員は事前に相談をして決定しました。

本日はプレゼンテーションを3団体にしてもらいます。一般事業が3件となっております。1団体15分間で、最初に3分間で申請概要説明をしていただき、残りの12分間で審査員に質疑をしていただきます。その間審査員以外の方には傍聴していただきます。

プレゼン終了後、委員の皆さんで討議をいたします。審査表などを参考に一件ずつ採択、不採択、修正の確認及び決定をしていただきます。

審査の視点としまして、住民の参加度や経費、補助金が無ければできない事業かなどについて見ていただけたらと思います。

それでは、プレゼンに移ります。

<申請団体によるプレゼンテーションの開始>

◇1 団体目 境港市立余子小学校保護者と先生の会（余子小学校PTA）

- ・申請事業 はないっばい運動
- ・事業内容 平成28年10月～4月初に小学校周辺での花の栽培に取り組む。児童、教職員、保護者ボランティアで取り組み、児童は1人1鉢での栽培活動を行い、美化活動への関心を高め、地域美化への意識と意欲を持たせることを目的とする。

（委員）

実施が全校生徒となっていますが、かなり年齢差がありますが取組にあたっては何か配慮がありますか。

（余子小学校PTA）

学年によって栽培する花の種類を変えたり、上級生になるほど管理全般をしてもらうようにするなど年齢に応じた取り組み内容となるようにしています。

（委員）

自分たちで育てた花で卒業生を送り出すということで、大変良い事業だと思います。一つ提案ですが、1年生の活動のお世話を6年生がするなど、学年を越えた交流ができないものでしょうか。

（余子小学校PTA）

1年生には土づくりや植え替え作業といった部分は難しかったりしますので、そこは保護者の方のお力を借りているのですが、植え替え作業の部分を下級生と上級生のペアで協力してできるのではないかと今ご提案を受け思っております。検討していきたいと思えます。

（委員）

私も他地区で長年花づくりに携わってきて、余子小学校を訪問した時にいつも花がきれいで、他少学校と比べてもきれいに飾ってあると感心しています。見積書を見ると花苗の数のわりにプランターの数が少ないように思いますが、今現在使っているプランターも再利用していくということでしょうか。

（余子小学校PTA）

申請しているプランターは、今回の実施に当たって買い足す数になります。今現在使用しているプランターは再利用していきます。

(委員)

プランターはいいものを買っておくと10年以上使えるので、いいものを買っておくといいかと思います。今までもきれいに飾ってありますので期待しています。がんばってください。栽培委員会のメンバーは高学年の児童でしょうか。

(余子小学校PTA)

5年生と6年生になります。

(地域振興課長)

今回、地域貢献に関わるることについて地域の一員であることの意識づけをしていきたいということですが、具体的にどのような形で事業を進めようと考えていますでしょうか。

(余子小学校PTA)

育てた花を入学式と卒業式に飾るだけではなく、地域の方にも見てもらえるように花を飾って、地域を飾るという意識で取り組んでいきたいと思っております。学校の近所には栽培に詳しい方がおり、手伝っていただいておりますが、その方が公民館活動にも深く関わっておられますので、公民館を通じた地域とのつながりにも発展させていけるかなと考えております。

(委員)

地域貢献性の部分について説明がありましたが、今の内容では地域への波及範囲が少し狭いように感じます。小学生が主となる取組ですのでそこまで望むのは難しいとは思いますが、もう少し、地域への波及範囲を発展させていく取組が必要だと思います。今の申請内容ですと学校周辺で完結していますが、例えば介護施設へ花を持って行って飾るなどというのは難しいでしょうか。

(余子小学校PTA)

学校活動で関係している施設、団体がありますので連携して取り組んでいくこともできるかもしれませんが、今回が地域に目を向けていくという取組の第1回目になりますので、まずは今の申請内容で取り組ませていただいて、発展については検討していきたいと思っております。

◇2 団体目 中浜マールキャンプ実行委員会

- ・申請事業 中浜マールキャンプ2016
- ・事業内容 平成28年9月に公共マリーナキャンプ場を会場に児童、保護者のキャンプ体験事業を開催。ふるさとの海「弓ヶ浜」を学びの舞台とし、キャンプを通じた子どもたちや保護者の交流促進、身近な自然や地域の伝統への理解を深めることを目的とする。

(委員)

申請内容で未定の部分が多く、決まっていないことに補助金をだせるかというところが疑問です。どういったことをするというのを申請書にきちんと記載してほしいです。また参加者15組60人となっていますが、これはどのような形で募集して決定するのですか。

(中浜マールキャンプ実行委員会)

募集については、学校を通じて案内を配布し、先着順で決定するように考えています。

(委員)

そのこともしっかり書いておいてほしいと思います。食事メニューも検討中とありますが、例えばカレーといったように決めて、そこから費用を積算して記載していただければと思います。

(委員)

実施経費予算について全て補助金が原資で参加者負担がないですが、少しでも参加者負担を取るべきだと思います。団体生活を経験できる機会ですので60人全体が参加する、遊べる内容を追加したらいいのではと思いますがどうでしょうか。

(中浜マールキャンプ実行委員会)

今回の取組の趣旨としては、学年の垣根を越えて、普段交流のあまりない子どもや保護者が相互に交流してもらいたいということとしていますので、ご指摘いただいた内容についてはアイデアを出して、1つでも2つでも取り組んでいきたいと思っています。

(委員)

昔は学校のグラウンドにテントを張ってキャンプをしていたように記憶していますが、どうでしたでしょうか。

(中浜マールキャンプ実行委員会)

昔の資料がなく、何年前にどのようにしていたかということは正確に把握していません

が自分の世代はそのようにやっておりましたし、違う世代ではマリナーでキャンプを行っていたという話もあります。

(委員)

他の委員からもありましたが、私も参加者の自己負担がないというのはおかしいように思います。例えばPTAから費用が出るといったことはないでしょうか。

(中浜マールキャンプ実行委員会)

当企画の発案はPTA役員からなのですが、今回初めて行うトライアル事業ということで、PTA本体の事業とすると制約が出てくる部分もあるので、現時点で実行委員会方式での実施としてすべて補助金が原資となる予算組をしており、PTAからの費用は入れておりません。

(委員)

私も長年、小学校の野外学習などの取組に携わっておりますが、費用は基本的に自己負担となっています。少なくとも体験活動費の部分は自己負担を求めるべきだと思いますし、たとえ1人500円でも自己負担をとるべきだと思います。

私自身もキャンプが好きなので、実施内容自体はいいものだと思います。

(中浜マールキャンプ実行委員会)

自己負担については求める方向で検討したいと思います。

(委員)

参加者に対する保険はどうなっていますか。

(地域振興課長)

近年行われていなかったキャンプ行事を復活させる、また学校の校庭ではなくマリナーを利用して浜辺で行うということはとても良いことだと思います。

今回新規設立事業での申請で上限が10万円ということで、その補助金額から費用を逆算して15組といった形になったのかなと思うのですが、食費の部分など参加料をとればもう少し参加者数を増やせるのではないかと思います。人数が増えれば管理上の危険が増すということもありますが、今回は保護者が必ず同伴することになっていますのでその点も問題ないのではないかと思います。できたら参加料をとって、参加者の枠を増やしてもらえたらと思いますし、継続した取組としていくためにも参加料をとっていきべきだと思います。

(中浜マールキャンプ実行委員会)

先ほどもありましたが、参加料については取る方向にしたいと思います。参加人数については今回に実行委員会の役員自体が初めての経験となりますので、人数が多くなると運営が心配というのが正直なところですが、参加人数については増やせるように検討はしていきたいと思いますが、安心・安全の面も含めて、無理のない範囲で今回は実施させていただけたらと思います。

◇3 団体目 一般社団法人境港青年会議所

・申請事業 LOVE IN THE BEACH

・事業内容 平成28年10月15日開催予定。新屋町海岸周辺を会場に出会いの場を提供する婚活事業を開催。市が進める人口減少対策に寄与するために若い世代を対象にした婚活イベントを体験型事業として実施し、出会いの場を提供するとともに海岸を舞台に地域の魅力を発信することで定住促進を図ることを目的とする。

(委員)

青年会議所ならではの若い人たちの事業だと思っています。20代、30代が対象となっていますが、その年代限定なのでしょうか。また広報はどのようにされますか。

(一般社団法人境港青年会議所)

今回はこの年代の限定にさせてもらっています。広報については市報の掲載の他、チラシの作成、FacebookなどのSNS等を利用した情報発信を行っていきたく考えています。

(委員)

事業目的なのですが、婚活ということで、様々な企画が記載されていますが、果たしてこの内容で婚活の目的であるカップルが誕生するのかが少し疑問です。みんなでビーチで楽しむだけでなく、カップル誕生に向けてもう少し工夫が必要ではと思いますが、過去にはどのような成果がありますでしょうか。

(一般社団法人境港青年会議所)

2007年度にラブマリーナという婚活イベントを実施いたしましたが、50名の参加で計11組のカップル成立という成果が出ております。

(委員)

参加者が1対1になる配慮、工夫が婚活事業としては足りないように思います。成果が出ているようであれば問題はないのですが。

(一般社団法人境港青年会議所)

今回は100人の参加を想定していますので、参加者全員が話をできるように5回のグループタイムを設けるようにしています。そのあとに1対1で話せる機会を設けるようにしたいと考えております。

(委員)

イベントで1回あっただけでその日に交際を決めてしまったりするということはありません。私がこの事業についていいなと思っているのは、例えばこの事業に参加しなくても、事業の広報を見ることによって、未婚の方が、結婚を多少でも意識するようになる、それだけでも事業効果があるのではと思います。イベント当日に何組のカップルが誕生するかというのもあるとは思いますが、これが何かのきっかけとなる出会いとなればいいと思います。

(委員)

成果のことを言いましたが、他委員の言われるようにきっかけづくりの場というのが大事ということですね。それでもせつかく大きな予算で事業をされるのでより効果のある事業となるように工夫していただくようよろしくお願いします。

(委員)

私も地元の境公民館で公民館運営審議会委員として、婚活事業に携わりました。市内では婚活事業を行ったのは境公民館だけで、計10回開催しました。

市役所の職員さんで結婚された方もいらっしゃいました。そのほかにも自分の勤め先でもそれを機会に結婚した人もいました。この事業にも期待をしております。一つ聞いてみたかったのですが、青年会議所のメンバーの中には独身者はいらっしゃいますか。

(一般社団法人境港青年会議所)

現在6名の独身者がおります。

(委員)

境公民館は10回で婚活事業を終了してしまったので、青年会議所のこの事業に期待をしております。頑張ってください。

(地域振興課長)

行政も婚活イベントをやっておりますが、その場でカップルは複数成立いたしますが、それが結婚までつながるのは本当に少数です。他委員も言われるようにきっかけづくりとなり、これに参加することで、また次の機会に参加する可能性もありますので、良い事業だと思っ

ています。参加者が市近郊の一般市民となっていますが、具体的にはどの地域を対象に声掛けをしようと考えていますでしょうか。

(一般社団法人境港青年会議所)

県境をまたいで、中海圏域で募集をしていきたいと考えています。

(地域振興課長)

行政も中海圏域で婚活事業をしておりますが、境港市だけで100名を集めるのは無理があると思いますので、市民に対しての補助金ではありますが、ある程度広い範囲を対象にしていかないとなかなか難しいかなというのが実感としてあります。

以前も婚活事業をされているので、大丈夫だとは思いますが、この種の事業をされる場合には個人情報の管理には十分に気を付けていただきたいと思います。

<プレゼンテーション終了>

(会長)

それでは審議に入りたいと思います。みなさんプレゼンをお聞きになりまして感じたことなどがあれば発言していただけたらと思います。まずは「境港市立余子小学校保護者と先生の会(余子小学校PTA)」から意見ををお願いします。

PTAとしては以前から花栽培をされておりましたが、当補助金を活用するのは初めてとなりますでしょうか。

(事務局)

過去10年ほどの実績ですが、余子小学校PTAは当補助金の緑化事業での補助実績はなく、第1回目ということになります。

市内で他に申請されていない小学校区は中浜小学校だけになりますが、中浜小学校は以前緑化事業での補助実績はありますが、現在は申請されていないという状況になります。

(委員)

初めての申請となり、事業目的などはとても大きな目標を立てておられますが、実施の内容はとても初歩的な内容になっています。他の校区は社会貢献という面でもっと進んだ取組をしています。全校生徒で実施するという大変な人数での計画となっていますので、今後きちんと継続されていくのかという懸念もあります。全校生徒を対象に、保護者も巻き込んで、管理運営していくというのはとても大変なことだと思います。今後発展していく見込みがあるのか、逆に尻すぼみになっていかないのかということをお心配します。

補助金を活用していただくのは全く構わないと思うのですが、他校区の進んだ取組を参考にして事業を実施していただきたいと思います。

(委員)

気になっているのは、どこの校区でもはじめはPTAが企画をされて、みんなで実施されるのですが、最近の管理体制を見るとほとんど学校の教職員、事務員の方が、管理・運営されているという状況もあります。もっとPTAが参加するべきだと思いますし、補助金を活用する以上は、学校に任せきりになるようなことにはならないようにしていただきたいと思います。余子小学校PTAの話だけでなく、他校区にもきちんと伝えていただければと思います。

(委員)

余子小学校前は県道で交通量も多く、目につきやすい場所ですので、そういった意味からもしっかり花で彩ってもらえたらと思います。頑張ってもらいたいと思います。

総合高校の緑化事業や余子公民館が主体としてやっておられる未来農業塾といった事業にも刺激を受けられて、今回取り組まれるのではないかなとも思います。

他校区が既に取り組んでおられるので、それを十分に参考にしてくださいと申請団体には伝えてもらいたいと思います。

(会長)

総合高校の実施内容に育てた花を余子小学校に持っていくというのがありますので、逆に高校に持っていくなど、相互の交流を図っていただけたらと思います。

今後、きちんと継続できるような体制で取り組んでいくこと、学校任せにならず保護者等も参加した地域活動として実施してもらおうということを伝えていただきたいと思います。

それでは、当事業については申請通りの採択としてよろしいでしょうか。

<異論なく、採択>

(会長)

続いて、「中浜マールキャンプ実行委員会」です。

いろいろと申請内容に不備もありましたが、これは修正されるということでもいいでしょうか。また、食糧費については、ボランティアへの昼食費などは認めていますが、今回の申請内容では、参加者の食糧費が丸々入っています。そこは問題かなと思います。

(委員)

食事を作るのにかかる経費、例えば野外での調理用具としての薪代などであれば理解もできるのですが、食事の原材料費は駄目だと思います。

事業内容もしっかり決まっていない、見積もり書添付の不備もあるので申請にあたってはしっかりとしてもらいたいと思います。

(事務局)

団体から申請をもらった時点で事務局としても食糧費は懸念されたところであります。食糧費の規定としては、原則駄目なのですが、事業と不可分なものについては認めるとしています。不可分なもの例として茶道のお茶会という事業があった場合に、お茶とセットのお茶菓子といったものです。今回の申請団体に話を聞いた際に、地元の食材を使って食育という観点からも調理体験をしたいという話があったので、基本的には食糧費は駄目だが、プレゼンの場でその点を説明いただいて、補助対象経費としての可否は審査員の方々に判断していただくということとしまして、食糧費を含んだ申請を今回この場に上げさせていただきます。

(委員)

事務局の説明はわかりましたが、申請書だけで見るとそのまま受付をするのはいかななものかと思えますし、事業内容が固まっていない、見切り発車の申請であるように思います。テントのレンタル経費も非常に高額になっていますが、これについてももっと工夫ができるのではないかと思います。学校関係ですので、テントをどこかから借りることができるのではないかと、それにより経費を抑えられるのではないかと思います。

ただ、マリーナを使って、子どもたちにキャンプ体験をさせる事業を復活させるという趣旨は非常によいものだと思います。

(委員)

食費については、自己負担を求めるべきだと思いますし、参加料をとるべきだと思います。

(委員)

実施時期についてですが、9月は運動会などの学校行事も多く、台風の懸念もありますので、夏休み中に開催するようにはできなかったのかなと思います。

(委員)

補助金の上限が10万円あるので、それを目いっぱい使って自己負担なしの事業を組み立てたというふうにも読み取れてしまいます。

地域振興課長も言われていましたが、親が同伴になるので管理面も問題ないと思いますし、人数を増やせばいいと思います。15組は少ないように思います。

(会長)

主催者が全体に指示を行きわたらせると考えた時に、20組、30組となったらもっと時間をかけた準備が必要になると思いますので、参加者数がある程度限定されるのは仕方がないかなとも思います。

(委員)

申請団体の説明のなかで、伯州綿の紙漉き体験を実施したいということでしたが、準備含めかなり大変ではないでしょうか。

(委員)

簡単にできるものではないですし、まして屋外での実施となると本当に大変だと思います。

(事務局)

この団体の採択について、事務局からの提案なのですが、事業の趣旨については賛同するという委員の意見も多かったですので、体験活動費、食糧費については自己負担とし、テントレンタル料についてはきちんと見積をとることとし、会場費とテントレンタル料については認める。ただし、認める経費についても精査した金額しか認めないということでしょうか。

(委員)

事業費の中に保険料がありませんので、その点も確認していただきたいと思います。

(委員)

テントは関係者の個人所有のテントなどはないでしょうか。もしあればそういったものも活用していけばいいのではないかと思います。

(事務局)

昔はしらぎく会館にキャンプ用のテントが多数あって、昔はそれを使われていたのではないかと思います。数年前の段階でも、かなりの期間、放置されておりボロボロになっていました。おそらく現在はもう処分されていると思いますし、市内に無料や安価で借りられるキャンプテントがないであろうと思います。

(委員)

いろいろな事情もあると思いますが、全てレンタルで多額の経費をかけるのもどうかと思いますので、個人所有のものなど、他に借りられる方法があれば検討してくださいということもお伝えいただければと思います。

(会長)

みなさんの意見もだいたい出ましたので、まとめとしては事業内容を確定させ、経費を精査して申請書を修正していただくということでしょうか。

(事務局)

会長からまとめがありました。修正した申請について、また委員の皆様が集まっていただいて審査するという事は難しいので、修正申請については、今日の意見を参考にし、事務局と会長で協議の上で、交付決定を行うということによろしいでしょうか。

<異論なく、交付決定内容については持越し>

(会長)

続いて「一般社団法人境港青年会議所」です。

(委員)

青年会議所の独身者の方も参加されるという前提で100人という人数かとも思いますが、公民館で実施した時も参加者集めには非常に苦労しました。

(委員)

青年会議所はイベント慣れしておられますので、運営や情報発信など積極的にやられると思います。

(委員)

青年会議所は毎回、趣向をこらしたイベントを次々と実施しておられますが、今回の事業は単年で終わってしまったら意味のないものだと思います。単年での成果を求めることも重要ですが、2年、3年と事業を継続していただければと思います。

青年会議所は毎年役員体制が変わりますが、是非継続して頑張っていただきたいと思えます。

(委員)

毎年、様々なイベントをやられ、それぞれに成果を出していると思いますが、他委員の意見と同様に、継続して、長い視点で事業に取り組んでいただきたいと思えます。

(事務局)

地域振興課で婚活事業も所管しており、松江市が事務局となり、中海・宍道湖・大山圏域で婚活事業に取り組んでおりますが、青年会議所より、行政で実施する今年9月の婚活イベントの際に、運営の参考にしたいので事務スタッフにボランティアで参加させてもらえないかという申出を松江市の事務局が受けております。そのように事前に運営の勉強をして、自分たちの事業実施に備えようという姿勢を示していただいております。

(委員)

プレゼンの際にもありましたが、個人情報の管理については特に気を付けてもらいたいと思います。

(委員)

参加者は1回限りの参加で、1回参加すると次回には参加できなくなるのでしょうか。

(地域振興課長)

婚活事業について、行政実施のイベントでも同様ですが、同じ方が毎年参加されても構いませんし、実際そういった方もおられます。

1度婚活事業に参加されて、それをきっかけに他の婚活事業に参加される方もおられますので、今回の事業はそういった意味でもきっかけづくりになるのではと思っています。

行政でやっているイベントでも1会場で10組以上のカップルが誕生しますが、それが結婚まで結びつくのは非常に少数となり1～2組程度です。またカップル成立した参加者のその後の動向の追跡ということも、個人情報の問題もあり、非常に困難です。結婚につながったとしてもイベントから1～2年後になるので、それだけ長期に渡って、後追いしていくことも困難なのが現状で、婚活事業は非常に難しい事業だと思っています。

行政としても議会等で成果について追及され、きちんと後追いするように言われますがそのような事情から困難なのが実情でありますので、成果について過度に求めていくのは難しいのでは思います。

今まで出会いが少なかった人、こういったイベントに参加していなかった人に対して機会を与えるということが重要ではないかと考えています。

(委員)

おっしゃられるように、機会を提供する、結婚に向けた環境を活性化させていくということが重要だと思います。

(委員)

結婚に向けて、このような事業に参加してみたいと若い人に思ってもらうために、青年会議所が事業に取り組むということについては、非常に大きな意味があると思います。

(会長)

いろいろ意見をいただきましたが、この事業については、単年で終わらないように継続してもらいたい、個人情報の管理については十分に気をつけてもらいたいという意見を付帯した上で、採択としてよろしいでしょうか。

<異論なく、採択>

(会長)

審査については以上となりますが、「その他」について事務局から何かありますでしょうか。

(事務局)

今年度6月より市報に「市民活動団体の紹介」を掲載しております。現時点では、市民活動推進補助金を活用している団体や活発に活動している団体に事務局から声掛けをしておりますが、こういった団体を掲載したらどうか、もっとこういった内容で掲載していったらどうかといったご意見等ございましたら、次回の会議の際でも構いませんのでおっしゃっていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

(委員)

市民活動推進補助金で申請のあった事業の紹介などもしていただけたらと思いますし、その団体が補助金を活用しているということも加えていただけたらと思います。

(事務局)

補助金で実施する事業の開催月に事業の紹介含めて、団体が紹介できるようにするなど、掲載時期については調整していきたいと思っています。補助金の活用についても紹介していきたいと思っています。

次回は10月頃に第3回の審査会を開催したいと思っています。その際には、4月に開催した第1回のみんなでまちづくり推進会議の議題「若者の行政参加について」といったことについての協議などもできたらと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

<会長>

若者の行政参加について、今夏の参議院選挙で投票資格が18歳からと変更になり、どれくらいの数が参加されたのかという実績についてもご紹介いただけたらと思います。それでは、これで今回の会議は終了したいと思います。ありがとうございました。

<閉会>